

(3) 特別支援学級のスポーツ環境に関する調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、地域で開催している特別支援学級の児童生徒を対象にした体育大会、運動・スポーツ大会における児童生徒の参加状況および運営体制の実態を明らかにすることを目的とする。

1. 2 調査方法

(1) 調査方法

ヒアリング調査

(2) 調査対象

以下3大会の事例をまとめた。

- ・札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」
- ・さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会
- ・三泗(さんし)小・中学校特別支援学級連合運動会

(3) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・特別支援学級の体育大会、運動・スポーツ大会の開催状況
- ・障害児・者の運動・スポーツ活動を推進するうえでの取り組み

(4) 調査期間

2016年11月～2017年2月

2. 調査結果(事例調査)

近年、障害の多様化、重度・重複化にともない、特別支援学級に在籍する児童生徒の運動・スポーツの実態も多様になっている。特別支援学級の運動・スポーツ大会の実施については、①通常学級の中で一緒に実施する大会、②特別支援学級と特別支援学校の合同で実施する大会、③特別支援学級のみで実施する大会、に大別される。①の実施については、「小中学校に在籍する障害のある児童生徒の体育の実施状況に関する全国調査」(2009年)において、運動会・体育祭などを通常学級と特別支援学級が合同実施するためにルールや内容を工夫していることが分かった。②については、「東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会」や「名古屋市立小中学校特別支援学級・特別支援学校連合運動会」のような事例もみられる。本調査では、③に分類される地域で開催される特別支援学級の児童生徒を対象にした体育大会や運動・スポーツ大会について事例ヒアリングを行った(図表 3-1)。

図表 3-1 事例調査で対象とした運動・スポーツ大会

名称	事務局	特徴
札幌市 特別支援学級体育大会 「レインボーピック」	札幌市 特別支援教育 研究連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市特別支援教育研究連絡協議会が体育大会を主催 ・多数の障害者団体・スポーツ団体が後援し、50年を超える歴史を持つ
さいたま市立中学校 特別支援学級 合同スポーツ大会	南浦和中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間に分けて、ビーチボールの部と長距離走の部を開催 ・長距離走の部では参加標準記録を設け、生徒の練習・学習意欲の向上を促進
三泗小・中学校 特別支援学級 連合運動会	三重県四日市市 教育委員会 教育支援課	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市・菰野町・朝日町・川越町の1市3町で三泗教育発表振興会を構成 ・三泗教育発表振興会内の三泗特別支援教育研究協議会が中心となり、運動会を開催

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

【特徴】

札幌市特別支援教育研究連絡協議会が体育大会を主催

多数の障害者団体・スポーツ団体が後援し、50年を超える歴史を持つ

1. 札幌市の特別支援学級の現状

札幌市では、小・中学校の約8割に特別支援学級を設置している。2016年5月現在、260校に582学級2,570人が在籍しており、約6割が自閉症・情緒障害、約4割が知的障害の学級である(図表3-2)。特別支援学級に加えて、言語障害を中心とした通級指導教室の設置、2009年には発達障害等に対応した通級指導教室「まなびの教室」を新設した。通級指導教室は、2016年5月現在、小学校では25教室、中学校では8教室が設置されている。

図表3-2 障害別特別支援学級在籍数(2016年5月現在)

	小学校(179校)			中学校(81校)			計(260校)		
	学校数	学級数	在籍数	学校数	学級数	在籍数	学校数	学級数	在籍数
知的障害	152	153	490	70	80	312	222	233	802
自閉症・情緒障害	173	238	1,203	76	104	546	249	342	1,749
病虚弱等	4	3	11	5	4	8	9	7	19
計		394	1,704		188	866		582	2,570

出典：札幌市教育委員会(2016)「札幌市特別支援教育の状況」

2. 札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

(1) 概要と目的

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」(以下、レインボーピック)は、2016年度で54回目を迎える大会である。2016年度は、札幌市の特別支援学級に通う小・中学生が参加して、札幌市円山陸上競技場で開催された。特別支援学級と通級指導学級を設置している学校長と担当教員で構成される札幌市特別支援教育研究連絡協議会(以下、札特連)が主催し、後援には札幌市小学校長会、札幌市手をつなぐ育成会、札幌市知的障がい福祉協会、札幌市障がい者スポーツ協会、札幌市知的障がい児・者施設連絡協議会、NPO法人さっされんが名を連ねている。

開催当初は参加者が少なく、小・中学校合同で実施していたが、近年の特別支援学級設置校の増加により、現在では小・中学校別々に開催しており、例年、小学校は10月上旬(2016年大会は10月5日)、中学校は9月上旬(2016年大会は9月9日)に開催している。

長年、課題となっていた「単なる行事の消化で終わるのではなく、教育そのものに迫る研究的深まりをどう図るか」をテーマに、第15回大会から「指導の手引き」を作成している。そのな



かで、「合同行事の在り方」に関する指針を明らかにした。指針では、「全市合同の行事」「運動会的の行事」を基本目標として、具現化に向けた指導展開の目安を規定している。

(2) 参加校数および参加児童・生徒数

市内の特別支援学級設置校は小学校が 179 校、中学校が 81 校である。2016 年度は、小学校 164 校 1,634 人、中学校 80 校 850 人が参加した(図表 3-3)。会場となった円山陸上競技場では、参加する児童生徒に加えて、教員、保護者ボランティアが大会の運営補助スタッフとして参加するため、3,000 人以上の関係者で会場は埋め尽くされた。

図表 3-3 レインボーピックの参加校・児童生徒数(2016 年度)

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
特別支援学級設置校	179校	1,704人	81校	866人
レインボーピック参加校	164校	1,634人	80校	850人

(3) 実施種目

2016 年度のレインボーピック(小学校)では、準備体操と組体操を全参加者で実施した。その後、学年ごとに徒競走が実施されたが、走行距離などは、事前に各学校の担当者間で打合せを行い、学年・能力などに応じて決定し、基本的には 1～2 年生が 30m または 50m、3～4 年生が 80m、5～6 年生が 100m となっている。同じくらいのタイミングでゴールできるよう、スタート地点を調整したり、走行補助具などを活用し、参加者全員が楽しめるよう工夫している。円滑に大会を運営するため、トラック競技とフィールド競技を同時進行で実施しており、学年ごとに徒競走終了後に玉入れと綱引きを行う(図表 3-4)。

昼食時に実施する有志による「よっちょれ」(よさこい)では、大会前に各学校に音源 CD と図解の踊り方読本を配り、日頃の練習を通じた教師の指導力向上を目的の一つとしている。

参加校はレインボーピックに向けて、約 1 か月前から体育の時間や放課後等を使って練習する。組体操や短距離走では、近隣小学校との合同練習も行っている。



図表 3-4 レインボーピック(2016 年度)プログラム

時間	種目	
9:40	準備体操	
9:45	組体操	
10:15～ (同時進行)	①30m走	終了後、1年生と2年生は玉入れ
	②50m走	
	③80m走	終了後、3年生と4年生は綱引き
	④100走	終了後、5年生と6年生は綱引き
12:00	アトラクション〈よっちょれ(よさこい)〉	
13:00	障害物競走	
13:50	400mリレー	

(4) 運営体制

運営には、総務係、競技係、審判係などの係ごとに実行委員会を構成しており、全体研修会での事前説明に加えて、実行委員会での打合せを通して、参加児童の特徴を共有し、本番を迎えている(図表 3-5)。また、各係のサブ担当者が次年度のメイン担当者になるように配置し、大会終了後には次年度に向けた全体反省会を開催し、円滑な引継ぎを進めている。

図表 3-5 レインボーピック(2016 年)各係の業務職掌

総務係(11人)	実行委員長(1人)	日程作成、実行委員派遣依頼、実行委員会・全体説明会開催など
	副実行委員長(2人)	実行委員会・全体説明会進行、当日連絡網作成、清掃分担計画など
	事務局(2人)	競技場との連絡・調整、委嘱状作成・発送、会計全般など
	特別支援学級部会 レインボーピック担当者(5人)	全体連絡・調整、会場警備・駐車場計画作成、アトラクションの取りまとめ、プログラム作成、選手登録など
競技係(64人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	競技実施案の作成、競技運営全般
審判係(33人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	競技審判、記録と記録整理
用具係(5人)	実行委員長(1人)	競技用具の手配と返却、競技用具の管理
名簿係(10人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	名簿の作成
放送係(4人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	案内放送、放送機器の操作
救護係(2人)	-	応急処置
駐車場係(6人)	-	駐車整理
児童係(多数)	-	児童の整列、安全管理と児童解散の指示

3. 札幌市特別支援教育研究連絡協議会

特別支援教育の実践研修を通し、会員同士の情報交換や社会への啓発理解に努め、札幌市の特別支援教育の振興を図ることを目的に1961年6月に発足した。会員は特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の担当教員、及び設置校の校長・教頭などで構成される。会員数は1,522人(2016年度)である。

(1) レインボーフェスティバル

レインボーピックの他、特別支援学級の児童生徒の日常の作業学習の発表の場として、「札幌市特別支援学級・特別支援学校作品展示即売会(レインボーフェスティバル)」を開催している。1955年に第1回を開催し、2016年度で60回目を迎えた。2014年度までは、旧富貴堂書店(現・札幌パルコ)、札幌駅西コンコース、札幌駅南口広場「アピア」ライラックホール、ラルズプラザ札幌店など、さまざまな会場で開催し、周知啓発にも努めてきた。ただ、毎年会場が変わることに児童生徒が不安を覚えたり、来場者に開催会場が浸透しないことを防ぐために、2015年度より、札幌市資料館にて開催している。

レインボーピックとレインボーフェスティバルの様子を収めた合同文集「元気にあるこう」の発行は、すでに54号を数える。

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

- 事務局：札幌市特別支援教育研究連絡協議会
- 開始年：1976年
- 参加対象：札幌市内の特別支援学級設置校（小学校・中学校）

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会

【特徴】

2日間に分けて、ビーチボールの部と長距離走の部を開催

長距離走の部では参加標準記録を設け、生徒の練習・学習意欲の向上を促進

1. さいたま市の特別支援教育の現状

さいたま市の公立小・中学校における特別支援学級設置率は38.1%（2013年度）と、他の政令市の特別支援学級設置率（平均84.6%）と比較して低い状況にあったため、2014年度より5か年計画として「第2次さいたま市特別支援教育推進計画」を策定し、環境の改善に取組みはじめた（図表3-6）。計画では、多様な学びの場として「特別支援学級の整備」を最重要課題として掲げ、特別支援学級の新設や増設が進められ、設置率は75.0%まで上昇した（2016年5月現在）。

図表 3-6 さいたま市立小学校・中学校の特別支援学級の現状（2016年5月現在）

特別支援学級	小学校（103校）	中学校（57校）	合計（160校）
設置校数	79校	41校	120校
設置率	76.7%	71.9%	75.0%
学級数	167学級	97学級	264学級
生徒数	689人	350人	1,039人

出典：さいたま市教育委員会「平成28年度さいたま市立学校（園）幼児・児童・生徒数集計」

2. さいたま市特別支援学級合同スポーツ大会

(1) 背景

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会は、1986年当時、旧浦和市に設置されていた中学校の特殊学級の教員が中心となり「浦和及び近隣中学校特殊学級合同スポーツ大会」として、ビーチボールと長距離走を種目として始められた。目的はスポーツを通じた生徒の交流で、3校が輪番で幹事校となる方法で運営してきた。

2001年にさいたま市に合併後は、現在の「さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会」に名称を変更し、2016年度大会で31回目を迎えた。市の合併により、大会を経験した教員が旧大宮、与野、岩槻地区の異動先の学校で参加を推奨したことと、特別支援学級の新設・増設という要因が重なり、参加校が急増した。2012年度までは、埼玉県障害者交流センターを会場に、午前中にビーチボール、午後に長距離走を実施していたが、参加校の増加により、2競技を一日で終了することが困難となった。また、長距離走では参加者数の増加に伴い、生徒同士の衝突、転倒などへの懸念もあり、運営面、安全面を考慮して、2014年度以降は、ビーチボールは駒場体育館、長距離走は駒場スタジアムに会場を移し、別の日程で開催している。

(2) 概要と目的

合同スポーツ大会は、スポーツを通じた特別支援学級の児童生徒の交流、大会を目標に日頃の練習を通して学習意欲を高めることを目的に開催している。また、参加校の教員同士が体育の授業の指導に関する情報共有を行うことで、教員同士の指導力向上にも繋げている。なお、南浦和中学校、八王子中学校、原山中学校の特別支援学級は、2016年度の3校合同の宿泊学習の事前交流として、原山中学校を会場にビーチボールの交流試合を行っている。

(3) 参加校数および参加生徒数

特別支援学級設置の中学校41校に開催案内を出し、2016年度はビーチボールの部に31校262人、長距離走の部に28校229人が参加した(図表3-7)。参加生徒の約6割が知的障害、約4割が自閉症・情緒障害であった。

図表 3-7 合同スポーツ大会への参加校・生徒数(2016年)

	ビーチボールの部 (2016年11月11日)	長距離走の部(2016年11月25日)			
		男子3000m	女子3000m	男子2000m	女子2000m
校数	31校	28校			
生徒数	262人	109人	24人	47人	49人
チーム数	39チーム				

(4) 実施種目

1) ビーチボールの部

ビーチボールは、ビーチボールを使用しバトミントコートで行うバレーボールに近いゲームである。ボールが柔らかく、スピードが遅いため、障害のある生徒も恐怖心なく取組める。この大会では1チーム5人を原則としているが、少人数の学級でも参加できるように、4人での参加や他校との合同チームでの参加を認めている。2016年度は8校が合同チームで参加した(図表3-8)。

「サーブは主審の笛の合図の後に腰より下から打つ」「一人で故意に連続して打つことは反則」「勢いでネットタッチしても反則はとらない」など、シンプルで分かりやすい独自のルールを設け、障害特性や障害の程度などにも配慮している。競技規定は、チーム編成、大会方式、ルール、審判の役割、予選グループの5項目で構成されており、大会終了後に実施する参加教員へのアンケートを通し、さらなる競技規則の改定を重ねている。



図表 3-8 ビーチボールの部 概要

会場	駒場体育館		
種目	ビーチボール		
表彰	優勝、準優勝、3位、4位のチーム		
日程	8:50	実行委員集合	・各校1人の実行委員を任命する
	9:00	全体集合、着替え、準備	
	9:15	体育館集合・整列	
	9:20	引率職員打合せ	・2016年度大会は70人の引率職員が引率した
	9:30	開会式	
	9:48	ビーチボールバレーリーグ開始	・参加チームをA～Gの7グループに分け、グループリーグで対戦する
	12:12	休憩・昼食	
	13:00	ビーチボール試合開始	
	14:05	決勝トーナメント開始	・各グループの上位2チームが決勝トーナメントに進む
	14:48	決勝試合終了	
	15:05	閉会式・解散	

2) 長距離走の部

円滑な大会運営を図るため、参加標準記録(3000mを20分以内に完走)を設定している。参加校は大会約2週間前に事務局に出場生徒の持ちタイムを報告し、そのタイムにより参加生徒の出場部門(3000mまたは2000m)が決定される(図表3-9)。

各学校では大会出場に向けて、体育の授業や放課後等に長距離走の練習に取り組んでいる。各学校の担当教員は、個人に応じた目標記録を設定するなどして、生徒の意欲向上を促している。数か月かけて、徐々に持ちタイムを更新していくことが生徒の自信と学習意欲の向上につながっている。

図表 3-9 長距離走の部 概要

会場	浦和駒場スタジアム					
種目	男子・女子 3000m	・事前に各学校で3000mの記録を計り、該当種目への申込みを行う				
	※3000mを20分以内で完走できる生徒					
	男子・女子 2000m					
	※3000mを20分以内で完走できない生徒					
表彰	男子1位～10位、女子1位～6位	・賞状の授与				
日程	8:45	実行委員会集合・打合せ	・参加種目変更の確認			
	9:00	全体集合				
	9:10	入場・準備・準備運動・スタートゴール地点確認				
	10:00	開会式				
	10:30	3000m 第1レース(持ちタイム上位の男子生徒)	2016年度 参加人数	68人	2015年度 参加人数	50人
	11:00	3000m 第2レース(そのほか男子生徒と女子生徒)		68人		62人
	11:30	2000m 第1レース(3000mに出場しない生徒)		90人		77人
	13:00	閉会式				
13:20	解散・片付け					

(5) 運営体制

参加校数の増加に伴い、運営ノウハウなどを事務局の輪番制で継承することが困難となり、2013年以降、大会運営の中心的役割を担っていた担当教員の勤務校である南浦和中学校が事務局を務めている。ビーチボールと長距離走に参加する学校の教員で実行委員会を構成している。参加校は、特別支援学級担当教員の中から1人を実行委員として選出し、年1回の実行委員会への出席、および連絡調整を行う。多くの参加校がビーチボールの部と長距離走の部の両方へ参加しているため、実行委員会は3部制としており、1部がビーチボールの部参加校、2部が全参加校、3部が長距離走の部参加校を対象としている(図表3-10)。実行委員会では、大会規則、当日の日程、審判の任命、各学校の役割、対戦組み合わせ等の確認を行う。



図表 3-10 合同スポーツ大会開催までのスケジュール

日程	内容	
2月	次年度の大会会場と日程の確保	
4月～	特別支援学級を設置する市内の中学校(41校)に開催案内を送付	
	申込み締切り(1学期)	
9月～	実施要綱の作成	
	実行委員会の開催(3部制)	
	1部	ビーチボールの部に参加する学校を対象
	2部	全校を対象
	3部	長距離走の部に参加する学校を対象
11月	ビーチボールの部と長距離走の部の開催	
12月	教員に対する事後アンケートを実施し、来年度に向けての反省点を抽出	
	実施要項及び手引きの改善	

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会

- 事務局：さいたま市立南浦和中学校
- 開始年：1986年
- 参加対象：さいたま市内の特別支援学級設置校（中学校）

三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

【特徴】

四日市市・菰野町・朝日町・川越町の1市3町で三泗教育発表振興会を構成

三泗教育発表振興会内の三泗特別支援教育研究協議会が中心となり、運動会を開催

1. 三泗地区の特別支援教育の現状

四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の1市3町は三泗地区と呼ばれ、市町を越えて教員間で児童生徒の教育活動の連携が図られている。三泗地区における特別支援学級設置校は小学校40校、中学校26校である。

四日市市に限ると、知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由、弱視、難聴の特別支援学級が設置され、2016年5月現在、小学生369人、中学生168人が在籍している。多くが知的障害と自閉症・情緒障害の児童生徒である(図表3-11)。

図表 3-11 四日市市の特別支援学級在籍児童生徒数(2016年5月現在)

	小学校		中学校		計	
	学級数	在籍数	学級数	在籍数	学級数	在籍数
知的障害	37	173	21	101	58	274
自閉症・情緒障害	40	183	16	60	56	243
肢体不自由	5	6	4	5	9	11
弱視	1	2	0	0	1	2
難聴	1	5	1	2	2	7
計	84	369	42	168	126	537

出典: 四日市市教育委員会(2016)「特別支援教育・相談」

2. 三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

(1) 概要と目的

2016年度で30回目を迎える三泗小・中学校特別支援学級連合運動会は、三泗地区における特別支援学級の児童生徒の交流を図り、日頃の練習の成果を発揮し、運動を通して達成感を味わうことを目的に開催している。

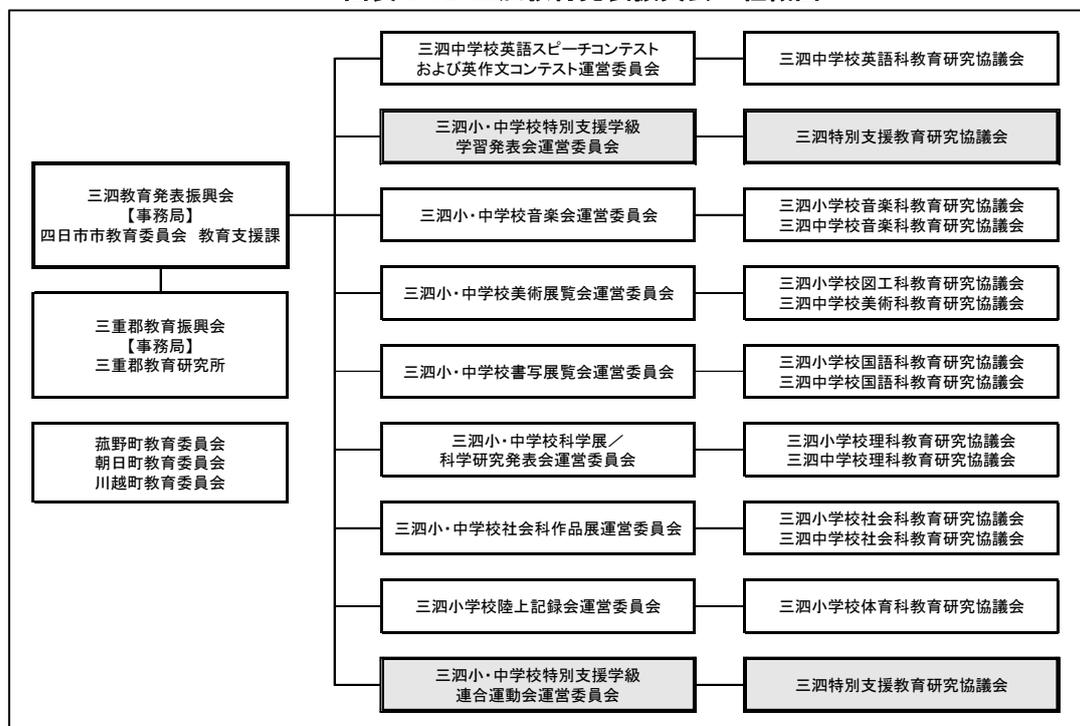
現在大会を主催する三泗教育発表振興会は、1986年、三重県四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の1市3町の教育振興のために設置された。障害の有無に関わらず、1市3町の児童生徒に対して、音楽会、美術展覧会、書写展覧会等を通して、学習発表の機会を提供している。行事ごとに運営委員会を設置し、運営している(図表3-12)。



その中で、特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して、学校教育を通じて様々な経験をさせたいという思いで、三泗特別支援教育研究協議会が中心となり「三泗小・中学校特別支援学級学習発表会」「三泗小・中学校特別支援学級連合運動会」を開催してきた。

毎年10月、平日の午前9～12時に四日市ドームで開催される。

図表 3-12 三泗教育発表振興会の組織図



出典：三泗教育発表振興会 HP(2016)より作成

(2) 参加校数・参加児童生徒数

三泗地区の特別支援学級設置校は、2016年度は小学校40校、中学校26校である。そのうち、小学校38校408人、中学校22校153人が参加した(図表3-13)。特別支援学級の設置校数が増加するに伴い、近年、参加者は増加している。大会には、参加する児童生徒に加えて教員、介助員や保護者が参加するため、約1,000人が四日市ドームに集まる。保護者は親子で参加可能な「かりもの競争」や「めざまし体操」に参加している。障害の程度や個人の体調を理解している各学級の介助員や教員がプログラムへの参加を支援している。

図表 3-13 連合運動会の参加校・児童生徒数(2016年)

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
四日市市	30校	305人	18校	127人
三重郡	8校	103人	4校	26人
計	38校	408人	22校	153人

(3) 実施内容

障害の程度や特性に応じてあらかじめ出場種目は決めておくと、当日の朝、体調変化等を考慮して、本人、教員、事務局が相談して最終決定する。また、集中力の持続が難しい児童生徒に配慮して、午前中に全プログラムが終了するように構成している。徒競走では順位を付けず、児童生徒がスタートからゴール、ゴール後の整列まで、教員のサポートにより実行している。また、会場の準備については、四日市ドームをAからJの10ブロックに区分けし、用具の準備等の役割を各学校に割り振るなど、大会運営を工夫している(図表 3-14)。



図表 3-14 連合運動会プログラム(2016年)

プログラム			会場準備		
No.	種目	参加対象	ブロック	担当の中学校数	内容
1	ラジオ体操第一	全員			<ul style="list-style-type: none"> ・音源CD ・コーン ・赤白旗 ・プラカード
2	中学生 80m走・100m走	中学校	I, J	7校	
3	小学生 80m走・100m走	小学校(3年生以上)	A, B, C, D	8校	
4	30m走・50m走	小学校・中学校	E, F	6校	
5	大玉ころがし	【選択】小学校高学年・中学校	G	2校	<ul style="list-style-type: none"> ・大玉4個 ・コーン8個
6	かりもの競走	小学校低学年&保護者	J, A, B, H	10校	<ul style="list-style-type: none"> ・かりもの各種 ・カード(二組)
7	サーキット・くぐったりとんだり	【選択】小学校高学年・中学校	C, D, E	7校	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスネット、ゴム紐 ・ボール10個、バケツ10個
8	低学年玉入れ	小学校低学年(1~3年生)	F, G	5校	<ul style="list-style-type: none"> ・赤白緑玉 ・玉入れ籠4×2
9	中学生玉入れ	中学校			
10	高学年玉入れ	小学校高学年(4~6年生)	H, I	5校	
11	めざまし体操	全員(保護者・来賓)			<ul style="list-style-type: none"> ・音源CD

(4) 運営体制

1市3町の教育委員会職員や教員などで構成される10人の役員が、輪番制で運営委員を担当している。大会の企画から当日の運営までを、運営委員と特別支援学級の担当教員が合同で行っている(図表 3-15)。四日市みなとライオンズクラブは、青少年健全育成事業の一環として、大会への寄付などの財政支援のほか、ビブスやスポーツ用具等の物品提供も行っている。

運動会の事前練習では、音楽の授業において「運動会の歌」の歌唱指導、体育の授業において「ラジオ体操第一」「めざまし体操第3(手のひらを太陽に)」のダンス指導を行っている。

図表 3-15 連合運動会開催までのスケジュール

日程	内容
6月下旬	役員会議(10人)で 運営方法についての打合せ
7月上旬	各学校に連合運動会を周知
	1学期終了までに、各校が参加を申込み 保護者が児童生徒を送迎できない場合は、学校単位でバスをチャーター
夏休み期間中	参加校の担任教員に対する研修会を開催し、当日の運営に関する説明
9月～当日まで	各学校で連合運動会へ向けた歌体操等の事前練習

3. 三泗特別支援学級学習発表会

毎年 2 月、四日市市文化会館にて三泗地区小・中学校特別支援学級設置校を対象に開催している。日常の学習活動の成果を発表することで達成感を感じ、他校の発表内容を鑑賞・見学することで交流を図ることを目的としており、ステージ発表(合唱・器楽演奏・劇など)と作品展示(平面・立体作品など)が行われる。当初、「卒業生を送る会」として卒業を控えた小・中学生の歌やダンスの発表機会を提供していたが、在校生にも発表の場を提供するため、1986 年以降、「学習発表会」として開催することとなった。

三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

- 事務局：三重県四日市市教育委員会 教育支援課
- 開始年：1986 年
- 参加対象：三重県四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の
特別支援学級設置校（小学校・中学校）

Ⅲ. まとめと考察

まとめと考察

スポーツ基本法の施行(2011)、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定(2013)、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」(2016)の施行、さらには東京パラリンピック開催の機運の高まりも相まって、共生社会に向けた様々な取組が進められている。

2017年3月、スポーツ庁は第2期スポーツ基本計画を策定した。計画の策定にあたったスポーツ審議会、及びスポーツ基本計画部会のメンバーには、多くの障害者スポーツ関係者が名を連ねた。計画では、「スポーツを通じた共生社会等の実現」に向け、障害者の週1回以上のスポーツ実施率を成人は19.2%から40%、7～19歳は31.5%から50%にする目標を新たに掲げた。また、計画には、以下の目標も示されている。

- ・ 総合型クラブへの障害者の参加促進(40%→50%)
- ・ 障害者スポーツ指導者の養成の拡充(2.2万人→3万人)
- ・ 活動する場がない障害者スポーツ指導者を半減(13.7%→7%)
- ・ 障害者スポーツの理解促進により、直接観戦経験者を増加(4.7%→20%)

これらの動きは、地方自治体が主体となって実施する障害者スポーツ振興事業や特別支援学校、特別支援学級の幼児児童生徒のスポーツ環境にも徐々に変化をもたらしている。

1. 障害者スポーツの振興体制

東京パラリンピック開催まで残すところ3年余りとなり、各地で自治体が主体となってパラリンピック選手の発掘イベントや障害者スポーツの理解・啓発のためのイベントが行われている。イベントでは、特別支援学校、公共スポーツ施設などが会場となり、都道府県・政令指定都市の障害者スポーツ協会、障害者スポーツ競技団体、パラリンピアン、都道府県の理学療法士会など、さまざまな関係団体・組織が連携してイベント運営する姿が見られるようになってきた。

2016年度現在、都道府県において、首長部局が障害者スポーツを所管しているのは、福島県、東京都、神奈川県、滋賀県、鳥取県、福岡県、佐賀県の7都県である。東京都と佐賀県のみであった2012年度調査から5県の増加であった。市区町村における障害者スポーツの主たる担当部署は、2012年度調査と比較すると「障害福祉・社会福祉関連部署」が71.2%から65.9%と減少、「教育委員会等のスポーツ担当部署」は19.2%から24.2%と増加、「首長部局のスポーツ担当部署」は3.1%から6.1%と増加した。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催も追い風となり、障害者のスポーツが厚生労働省所管の医療分野で発展してきたリハビリテーションの延長から、障害者の生涯スポーツ、競技スポーツの観点から、スポーツ庁所管の“スポーツ”としての認識に変わってきたと言えるかもしれない。なお、障害者スポーツの所管を人口規模別にみると、20万人未満の市区町村では「障害福祉・社会福祉関連部署」、20万人以上では「首長部局のスポーツ担当部署」の割合がそれぞれ高く、この傾向は2012年度調査と同様であった。障害者スポーツの所管部局とは別に、パラリンピックを含めた理解・啓発のための出前教室などを教育委員会が主体となり実施している自治体も増えてきた。

障害者スポーツに関する事業を実施するために協力・連携している団体組織について、都道府県では「障害者スポーツ協会」「障害者スポーツ指導者組織」「障害者スポーツ種目団体・クラブ・サークル」が多いのに対して、市区町村では「市区町村社会福祉協議会」「障害者の当事者団体、家族会等」が多かった。市区町村ごとに障害者スポーツ協会が設置されているのが理想かもしれないが、現実的には、社会福祉協議会や当事者団体、家族会等が、障害者の余暇活動のひとつであるスポーツに継続的に関わることになるのであろう。したがって、市区町村の障害福祉部局は、仮に障害者スポーツの担当部署がスポーツ部局に移管したとしても、こうした福祉関連団体との連携の側面から、障害者のスポーツの振興において引き続き重要な役割を果たさなければならない。

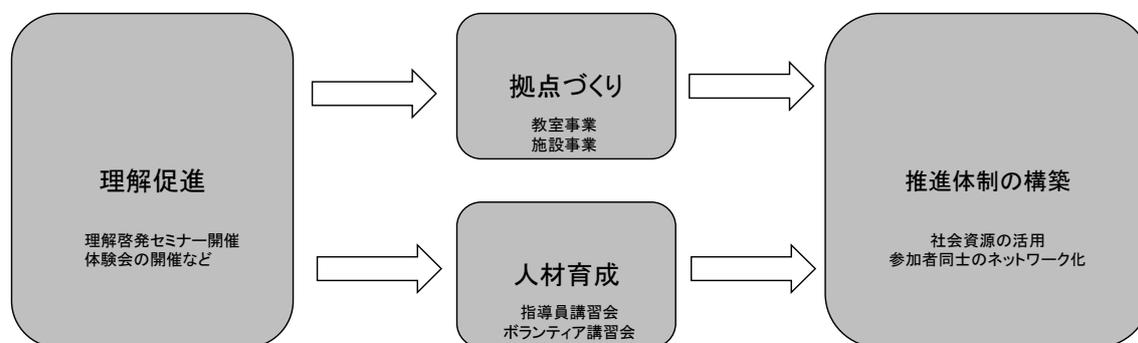
都道府県の障害者スポーツに関する事業について 2012 年度調査と比べると「障害者スポーツ・レクリエーションの教室(単発事業)」は 18 自治体から 13 自治体、「障害者スポーツ・レクリエーションの教室(一定期間内の継続事業)」は 31 自治体から 28 自治体と減少している。一方で「一般の市民運動会等における障害者スポーツ体験・紹介ブースの設置」が 3 自治体から 10 自治体、「一般のマラソン大会等における障害者部門の設置」が 1 自治体から 5 自治体、「障害者スポーツ選手の講演会や実技披露等」が 10 自治体から 19 自治体に増加した。2020 年東京パラリンピックが近づき、障害児・者向けのスポーツ教室が減少し、健常者と一緒に行うスポーツイベントなどが増加した。障害者スポーツ関連予算が増加している中で、一定の配慮が必要な障害者にとっては、スポーツ機会が増大しているとは必ずしも言えない状況である。その一方で、今まで障害者向けスポーツ教室だったものが、障害の有無にかかわらず、誰もが参加できるスポーツ教室に発展した事例や、都道府県障害者スポーツ協会や障害者スポーツセンターが主催する事業を自治体が後援する事例などもある。そのため、調査結果の事業数の増減のみから、自治体の障害者スポーツ振興の進展を評価するのは適切ではない。

自治体が障害者スポーツ事業を外部に委託する場合、委託先の組織・団体が障害者スポーツに専門性を有していても、事業の企画、会場の選定、周知・啓発、当日の運営まで、事業の全ての工程を委託してしまうと、事業のノウハウが行政側に残らないため、理想としては、行政だからこそ保有するネットワークを活用しながら、徐々に行政側でもノウハウの蓄積ができる事業委託体制が望ましい。その好事例として、東京都江戸川区が挙げられる。江戸川区は 2016 年度から障害者スポーツ担当部署をスポーツ振興部局に移管し、本格的に障害者スポーツ振興を開始した。障害者スポーツの専門性が必要な事業の企画段階から東京都障害者スポーツ協会と協働し、障害者スポーツ事業の見学、関係者へのヒアリングなどを行いながら、江戸川区の行政担当者がこれまでに培った地域ネットワークを活かして、事業を展開している。例えば、イベントや大会などの周知・啓発については、介護支援サービスに関する施設との連絡調整などに長け、障害者ネットワークも保有する介護支援専門員(ケアマネジャー)に協力してもらうため、ケアマネジャーの月例会議や区内小中学校が地区ごとに開催する校長会に出席するなどして、事業の意義・内容について説明して回っている。区内のあらゆるネットワークを駆使しながら、行政職員が自ら足を運んで、常に住民と顔の見える関係づくりを意識していることが、障害者スポーツ振興にうまく取り組んでいる要因と言えるだろう。

行政が中心となり、現場に精通した地域の指導者や障害者スポーツ協会との連携、すでにある地域の社会資源の有効活用など、行政が障害者スポーツ関連事業を進めていくにあたっては、江

戸川区の事例などを参考に図 4-1 のモデルを描くことができる。

図表 4-1 障害者スポーツ関連事業を通しての推進体制の構築



スポーツ推進に関する審議会の有無と障害者関係者の委員就任状況について 2012 年度調査と比べると「審議会があり、障害者関係者が委員に就任している」が都道府県では 30 都道府県から 38 都道府県、市区町村では 6.8%から 11.4%と、いずれも増加した。今後も、障害者スポーツについては、スポーツ部局への一元化の流れは進むと思われる。その状況において懸念すべきは、スポーツ担当部局が保有するネットワークの中では、スポーツ推進に関する審議会に名を連ねる障害者関係者がパラアスリートばかりになる可能性である。パラアスリートは地域の障害者スポーツ環境については把握していても、三障害(身体障害、知的障害、精神障害)全てに精通しているとは想定しにくい。スポーツ担当部局への一元化が進んでも、障害福祉部局との関係を維持しつつ、オブザーバーとして三障害の障害当事者が議題に応じて参加するなど、障害種別の意見を集約できる仕組みづくりが必要不可欠である。

2016 年 4 月の障害者差別解消法施行以後、障害者に対して法律に基づいた合理的な配慮をした事例の把握は、都道府県で 9 都道府県、市区町村で 6.7%となっている。今後、事例の把握につとめる自治体が増加していくと思われる。その際には、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース(インクル DB)」で集約を進めている『合理的配慮』実践事例が発展していくことが期待される。

2. 特別支援学校のスポーツ振興

文部科学省は 2020 年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改定)をきっかけに、オリンピック・パラリンピックレガシー事業として、全国の特別支援学校においてスポーツに限らず、文化、教育活動も含めた全国的な祭典を開催するための「Special プロジェクト 2020」を推進することとしている。また、全国特別支援学校長会においては、障害の有無にかかわらず、誰もが運動・スポーツを楽しむことができる共生社会の実現を目指し、「みんな de スポーツ推進委員会」を立ち上げ、特別支援学校の児童生徒を中心としたスポーツイベントの共催や情報提供などを通してスポーツ振興を進めている。

特別支援学校のスポーツ環境に関する調査は、2013 年度に続いての実施となる。2013 年度は全国 1,211 校であった学校数が本調査では 1,302 校に増加した。学校区分としては、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱の割合はほとんど変わらなかったが、学校に在籍する児童生徒の実態を回答した今回の調査では、回答校における実質的な『併置校』の割合が、17.7% から 29.4%と大きく増加した。少子化の社会情勢に反しての特別支援学校数の増加、実態としての『併置校』数の増加、全体の約 8 割の学校において重度・重複の児童生徒が在籍している事実からも、特別支援学校における児童生徒の重度・重複化が進んでいることが推察される。

日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員の資格についてみると、資格を保有する教員が在籍する学校は 21.4%であった。2012 年度に総合型地域スポーツクラブ、2013 年度に障害者入所施設を対象に同様の設問の調査を実施したが、障がい者スポーツ指導員の資格を保有している指導者がいる総合型地域スポーツクラブは 16.8%、障害者入所施設では 13.8%であった。障害児・者のスポーツ環境を提供するためには障がい者スポーツ指導員の有資格者はもちろん重要であるが、重度・重複化が進んでいる特別支援学校で求められているのは、多様な児童生徒に対応できる数多くの引き出しを持った指導者である。障がい者スポーツ指導員の資格の有無にかかわらず、豊富な経験に基づき、児童生徒の障害特性を理解した特別支援学校の教員がスポーツ指導を行うことは自然な流れと言える。ただ、教員が運動部活動の延長線上で行う校外でのスポーツ指導には、障がい者スポーツ指導員という有資格者の“安心感”を参加者や保護者が求める可能性はあるだろう。障がい者スポーツ指導員の資格取得に向けては、都道府県特別支援学校長会と緊密な連携を図ることが、教員の資格取得への後押しになるであろう。

運動部活動やクラブ活動などを通年で実施している学校は、全体で約 6 割、聴覚障害(単置)で約 9 割、視覚障害(単置)で約 8 割と 2013 年度調査と大きな変化はみられなかった。実施種目を障害種別でみると、視覚障害では、フロアバレーボール、グランドソフトボール、サウンドテーブルテニスが高位を占め、日本の盲学校が発祥の競技として、根強い人気を誇っていた。体育の授業のなかで長年実施されてきたこと、それに合わせて、すでに用具が学校に整備されていること、視覚障害の教員が当事者目線での指導が可能であることなど、上位に挙がる理由は様々である。肢体不自由では、ボッチャ、ハンドサッカーが 2013 年度調査同様に上位であった。ボッチャは、2016 年リオデジャネイロ・パラリンピックで日本代表チーム(脳性まひ)が銀メダルを獲得したこと、日本ボッチャ協会、全国特別支援学校長会、全国特別支援学校肢体不自由教育校長会、東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟、東京ボッチャ協会などが連携して「ボッチャ甲子園」を開催するなど、活動の場が広がっている。また、ハンドサッカーは、東京都肢体不自由特別支援学校体育連盟が主催する大会が 28 回を数えるほか、東京都の肢体不自由特別支援学校の卒業生を対象に日本ハンドサッカー協会東京支部、日本肢体不自由児協会などが連携してハンドサッカーフェスティバルを開催している。

運動部活動、クラブ活動で外部指導者を導入している学校は約 1 割で、知的障害(単置校)と聴覚障害(単置校)が多かった。外部指導者の経歴は、約 6 割が地域のスポーツ指導者、約 3 割が特別支援学校の教員(元教員、他校の教員)、約 2 割が障害者スポーツ協会や障害者スポーツセンター職員、障がい者スポーツ指導員、保護者であった。指導種目の上位には、卓球(39.4%)、サッカー(ブラインドサッカー含む)(16.9%)、バスケットボール(14.1%)、陸上競技(12.7%)が挙げられており、一般のスポーツ指導を行っている指導者が特別支援学校の児童生徒にも指導してい

る状況が推察できる。障害者のスポーツ指導に専門性がない指導者でも、参加する児童生徒の障害の程度や障害特性、個別に配慮する点などを理解すれば指導が可能になることから、さらに多くのスポーツ指導者が特別支援学校の運動部活動・クラブ活動で指導できる可能性がある。障がい者スポーツ指導員を外部指導者として活用しきれていない理由としては、地域の障がい者スポーツ指導員の存在を特別支援学校の教員が把握できていないことも考えられる。現在、障がい者スポーツ指導員の登録者は約 23,000 人で、初級約 19,000 人、中級・上級が合わせて約 4,000 人となっている。初級障がい者スポーツ指導員は、障害児・者にスポーツの喜びや楽しさを伝えるための支援者としての役割が求められており、運動部活動・クラブ活動の指導者の能力を兼ね備えているのは、主に中級・上級の障がい者スポーツ指導員となる。日本障がい者スポーツ協会には、さらなる中級・上級障がい者スポーツ指導員の養成に加えて、特別支援学校との連携を強化して、外部指導者の活用について、特別支援学校の教員が気軽に相談できる仕組みづくりを期待したい。

学校で今後必要としているスポーツ用具として、肢体不自由の学校でゴールボール用具やサウンドテーブルテニス用具が上位に挙げられた。一見、視覚障害者のスポーツ用具と肢体不自由の児童生徒とは無関係のように思えるが、アダプテッドスポーツの観点でみると、例えば、空間認知が苦手な児童生徒は平面での卓球に取組みやすいためにサウンドテーブルテニス用具を利用することが考えられる。本来の使用目的とは異なる使用方法であっても、教職員が工夫しながら、児童生徒へのスポーツ環境を提供している状況が垣間みえる。また、山口県立防府総合支援学校では、児童生徒の残存する機能でスポーツが楽しめるようにと、複数の教科の内容を組み合わせる効果的・効率的に指導する合科の視点で補助具の製作を行っている。例えば、ボールを投げるのが難しい場合、手や足で板を押す反動で球を飛ばせるよう、独自開発した器具を提供することで、スポーツを楽しむ機会を創出している。

3. 特別支援学級のスポーツ振興

特別支援学級のスポーツ大会については、①通常学級と特別支援学級が一緒に実施する大会②特別支援学校と特別支援学級が合同で実施する大会③特別支援学級のみで実施する大会に大別される。大会を主催する団体は地域特性などもあるが、札幌市特別支援学級体育大会のように特別支援教育団体が主体となる場合、三泗小・中学校特別支援学級連合運動会のように教育団体が主体となる場合がある。

特別支援教育の一環として、特別支援学級に籍を置く児童生徒が学年の枠を越えて一緒に体育を実施する時間を設ける例もあるが、現行の教育システムでは、特別支援学級を担当する場合、体育の専門性や特別支援の教員免許保持が必須条件とはなっていない。そのため、アダプテッド体育という視点で体育的な活動を展開することに戸惑いがあることも事実である。なかには、アダプテッドスポーツの専門性を有する近隣大学と連携して、大学における教育活動の一環として、大学生を受け入れ、体育の授業、特に水泳学習における支援を体験的に学ばせることで、児童生徒のスポーツ環境を創出していることもある。参加した大学生にとっては、特別支援教育対象の子どもたちと直接関わることができる貴重な機会となり、卒業後に保健体育教員として「インクルーシブ体育」を考える契機になっている。また、特別支援学校や特別支援学級の教員を目指すなどアダプテッド体育への誘いにもなっている。

特別支援学級の児童生徒は多くが知的障害、自閉症、情緒障害などの障害であり、パラリンピックの実施競技と対象障害が直接結び付きにくく、児童生徒の目標としてパラリンピックを掲げるのが難しい実態もある。そのため、生涯を通して、楽しくスポーツをするためのきっかけとして、通常学級の児童生徒と一緒にスポーツをする機会の増加やルールを簡素化してスポーツを楽しめる環境づくりが大切になってくる。

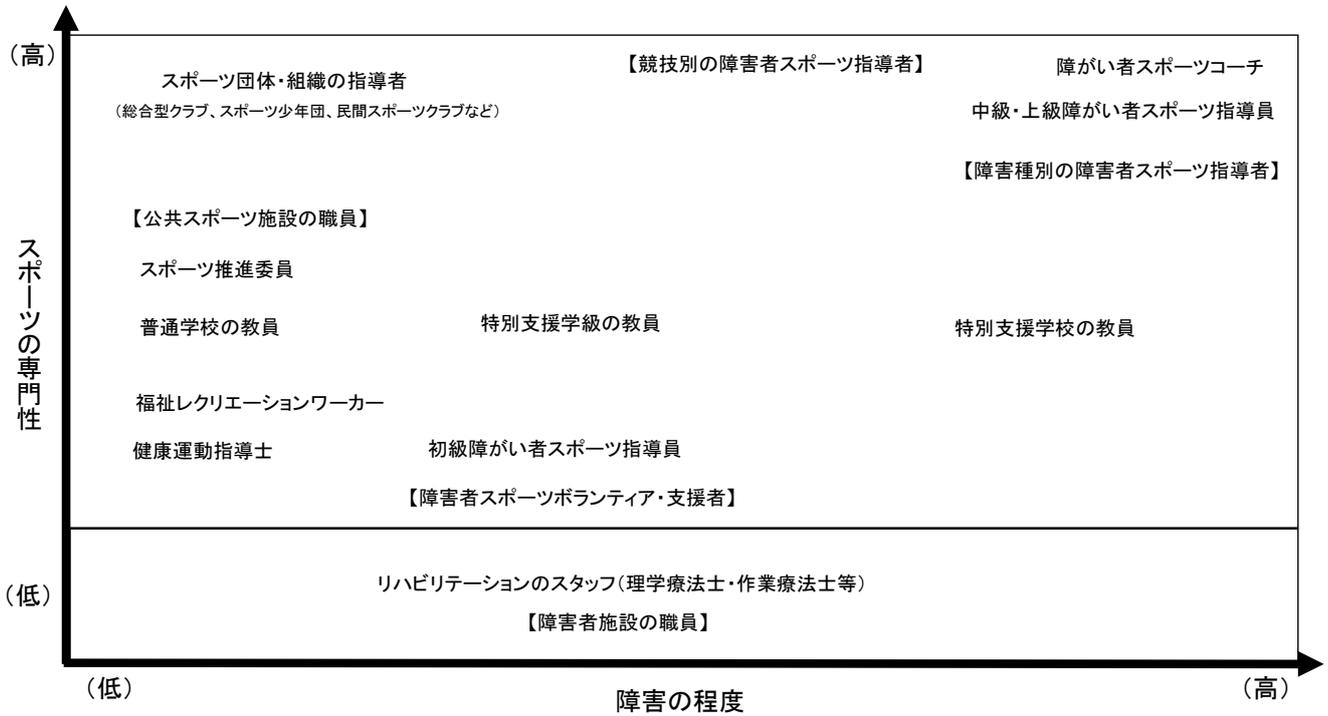
4. 障害者のスポーツ指導・支援に求められる多様な人材

今後求められるのは、障がい者スポーツ指導員を含めた現場に即した多様な障害者スポーツの指導者・支援者育成だろう(図表 4-2)。例えば、特別支援学校の教員がスポーツの専門性について習得できる研修会、公共スポーツ施設の職員が障害特性について理解する研修会、健康運動指導士が運動指導の研修会の一環でスポーツや障害特性などを学ぶなど、特定のスキルや経験を保有する対象者に限定して、障害者にスポーツを提供するうえで必要最低限の情報・知識を補完する仕組みが作られると、障害者スポーツを支援したいと思っている人たちへ門戸が広がるだろう。研修会や勉強会などは、在住・在勤以外の近隣自治体でも受講できる仕組み(隣接する自治体が連携し、それぞれの講習会の時期をずらして開催するなど)や、インターネットを活用して動画視聴による受講を可能にするなど、障害児・者のスポーツを支援したい人たちが容易にアプローチできるように、多様な手段があることが望ましい。また、実技講座については、実施場所が容易に確保でき、障害者スポーツに専門性がない人でも安全で楽しく実施できるボッチャや卓球バレーなど、地域特性や参加者の障害特性に応じて、支援者が取り組みやすい競技に限定し、一日研修会などの終了後すぐに実践に活用できる仕組みづくりも大切になるであろう。

大学の体育教員養成カリキュラムのなかで、障害者スポーツに関する授業を必修項目にするのも一案であろう。障害のある児童生徒のスポーツ指導で困っている体育教員の相談役となることや、体育の授業で見学を余儀なくされていた児童生徒にスポーツ機会を提供することにもつながるはずである。医療関係者、特にリハビリテーションで障害者と直接関わる理学療法士・作業療法士、障害者施設の職員が、障害児・者が社会復帰に際してスポーツを紹介・提供できる案内役となることを期待したい。

治療、リハビリテーション、教育、就労など、障害児・者がスポーツをしたかったときの受け皿として、どのライフステージにおいても障害者にスポーツ指導できる人がいることが望ましいが、地域によって障害児・者の環境は多様であることから、まずは障害児・者にスポーツ指導できる人を紹介・提供できる仕組みづくりから始めることが障害者スポーツの普及・振興につながる第一歩である。

図表 4-2 障害者のスポーツ指導にかかわる人材の多様性



IV. 参考文献・付録

参考文献

1. 全体

(公財)日本障がい者スポーツ協会(2017).http://www.jsad.or.jp/training/pdf/trainer-registrant_170228.pdf

笹川スポーツ財団(2013).平成24年度 文部科学省『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書.

笹川スポーツ財団(2014).平成25年度 文部科学省『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書.

笹川スポーツ財団(2015).平成26年度 文部科学省『健全者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)』報告書.

笹川スポーツ財団(2017).政策提言2017.

スポーツ庁(2017).第2期スポーツ基本計画.

(独)国立特別支援教育総合研究所(2016).インクルーシブ教育システム構築支援データベース.

内閣府(2016).障害を理由とする差別の解消の推進.

藤田紀昭(2013).障害者スポーツの環境と可能性.

2. 地方自治体の障害者スポーツ振興に関する調査

魚津市ホームページ <http://www.city.uozu.toyama.jp/>

障がい者スポーツ振興懇話会「障がい者とスポーツ」第54号、第55号、第56号.

高槻市ホームページ <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/>

第37回魚津しんきろうマラソンホームページ <http://www.uozu-shinkirou-marathon.jp/>

第25回東日本車椅子バスケットボール選手権大会 大会プログラム.

長岡市ウェブサイト <http://www.city.nagaoka.niigata.jp/>

長岡市スポーツ推進計画(案) 平成29年.

日本障がい者スポーツ協会 平成27年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会一覧(地域主催).

福岡市スポーツ協会ホームページ <http://www.sports-fukuokacity.or.jp/index.html>

福岡市スポーツ振興計画～スポーツでこころとからだの健康づくり～平成22年.

福岡市ホームページ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/index.html>

福岡市立障がい者スポーツセンターさん・さんプラザホームページ.

<http://www.fc-jigyoudan.org/sunsun/s-a-1.html>

福岡市立障がい者スポーツセンター「平成27年度版さん・さんプラザ年報」.

福岡都市圏ホームページ <http://www.fukuoka-tosiken.jp/>

福島県ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/>

3. 特別支援学校のスポーツ環境に関する調査

玉村公二彦, 清水貞夫, 黒田学&向井啓二(2015).キーワードブック特別支援教育.

平成27年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査鹿児島県結果分析(概要版),

https://www.pref.kagoshima.jp/ba06/kyoiku-bunka/sports/school/documents/51140_20160330122857-1.pdf

4. 特別支援学級のスポーツ環境に関する調査

さいたま市教育委員会(2016).「平成 28 年度さいたま市立学校(園)幼児・児童・生徒数集計」

<http://www.city.saitama.jp/003/002/008/index.html>.

齊藤まゆみ, 金山千広&山崎昌廣(2009).小中学校に在籍する障害のある児童生徒の体育の実施状況に関する全国調査.

札幌市教育委員会(2013).第7回「新たな札幌市教育振興基本計画」検討会議 資料3:教育を取り巻く現状と課題, https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/keikaku/new_plan/documents/7shiryo_3.pdf.

札幌市教育委員会(2016).平成 28 年度札幌市特別支援教育の状況.

三泗教育発表振興会 HP(2016)

<http://gakkoukyouiku.saitama-city.ed.jp/sosiki/sidou2/tokubetunew2009/suisinkeikaku2.pdf>.

http://www.city.saitama.jp/006/007/011/001/009/p022815_d/fil/25h26kyoiku.pdf

第2次さいたま市 特別支援教育推進計画(2014). <http://gakkoukyouiku.saitama-city.ed.jp/sosiki/sidou2/tokubetunew2009/suisinkeikaku2.pdf>.

平成 27 年度第 2 回さいたま市総合教育会議(2015).「さいたま市における特別支援学級の状況」

http://www.city.saitama.jp/006/007/002/021/p036929_d/fil/nikai-shiryo.pdf

四日市市教育委員会(2016).特別支援教育・相談. <http://www5.city.yokkaichi.mie.jp/secure/63808/3-05.pdf>.

地方自治体の障害者スポーツ振興に関する調査

地方自治体の障害者スポーツ振興に関する調査

本調査は、平成28年度スポーツ庁「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加における障壁等の調査分析）」にかかる調査の一部であり、地方自治体の障害者スポーツ振興の状況をおうかがいするものです。アンケート結果は、スポーツ庁のホームページ等を通じて公開されるとともに、スポーツ庁による障害者スポーツ振興のための施策の充実のための基礎資料として活用されます。

お忙しいところ誠に恐れますが、アンケートの趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

公益財団法人 笹川スポーツ財団

【回答方法】 電子メール、または郵送のいずれかでご回答ください。

- ① 電子メールによるご回答
（送付先メールアドレス）sports2016@nrc.co.jp
- ② 郵送によるご回答
同封の返信用封筒（受取人払い）にてお送りください。

調査票の発送・回収・データ入力については、公益財団法人笹川スポーツ財団の委託先である株式会社リサーチセンターが担当しております。調査について不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社リサーチセンター 調査部 担当：蔵田・森本

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1

TEL 0120-094-766（平日 10:00～17:00）

ご回答期限：2016年9月15日（木）

問1 プロフィール

エクセル調査票番号（エクセルファイルでご回答の方は、お送りした調査票の右上の4桁の数字をご記入ください）		
自治体名	<都道府県>	<市区町村>
所属	※部局から、課、係・室・班などまで、できるかぎり詳しく正確にご記入ください。	
記入者氏名		
電話番号		
E-mail		

【障害者スポーツ担当部署と実施事業について】

問2 貴自治体において、

- （1）障害者スポーツの**主たる担当部署**をひとつだけお選びください。
- （2）障害者の生涯スポーツ（地域における障害者のスポーツ参加促進）に関連する事業を所管している部署をすべてお選びください。
- （3）障害者の競技スポーツ（トップ選手に発掘・育成など）に関連する事業を所管している部署をすべてお選びください。

※ 団体・全国障害者スポーツ大会の開催準備のために、限定的に設置されている部署は除きます。

部署名	（1）主たる担当部署 （○はひとつ）	（2）障害者の生涯スポーツに関連する事業 （○はいくつでも）	（3）障害者の競技スポーツに関連する事業 （○はいくつでも）
1 障害福祉・社会福祉関連部署	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 教育委員会等のスポーツ担当部署	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 首長部局のスポーツ担当部署	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 1～3以外のオリンピック・パラリンピック関連部署	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 その他 []	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

問3 障害者のスポーツ振興に関する事業についてお答えをお願いします。

- 〔1〕 貴自治体が平成27（2015）年度に主催した事業について、あてはまるものをお選びください。
 ※〔1〕でチェックした項目については、〔2〕～〔4〕にもお答えください。
 〔2〕 参加者の障害種別すべてをお選びください。
 〔3〕 事業実施の主な協力団体や委託先をお選びください。
 〔4〕 事業の実施にあたり、障害者自立支援法の地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室
 関連等事業」を利用しましたか。

	〔1〕 実施した事業（はい/いいえ）	〔2〕 参加した障害種別（P2の【障害種別一覧】より選んで、番号を記入してください。複数可）	〔3〕 協力団体・委託先（P3の【協力団体・委託先一覧】より選んで、番号を記入してください。複数可）	〔4〕 地域生活支援事業「スポーツ・レクリエーション教室関連等事業」の利用（番号/いいえ）
（記入例）	<input checked="" type="checkbox"/>	1、2、3、4、5、6、7	2、4、6、9	<input checked="" type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
1. 障害者スポーツの競技大会（全国障害者スポーツ大会予選会など）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
2. 障害者スポーツ・レクリエーションの運動会（市民大会など）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
3. 障害者スポーツ・レクリエーションの教室（単発事業）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
4. 障害者スポーツ・レクリエーションの教室（一定期間内の継続事業）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
5. 障害者スポーツ指導者養成講習会	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
6. 障害者と障害者の交流を目的としたスポーツ大会（主な種目）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
7. 一般の市民運動会等における障害者スポーツ体験・紹介ブースの設置	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
8. 一般のマラソン大会等における障害者部門（視覚障害の部、車いすの部など）の設置	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
9. 障害者スポーツ選手の講演会や実技披露等（体験会などを含む）	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
10. その他	<input type="checkbox"/>			<input type="radio"/> 1.利用した <input type="radio"/> 2.利用しなかった
11. 主催したものはなし	<input type="checkbox"/>			

◆回答選択肢◆（2ページの問3（2）の回答選択肢としてお使いください）

【障害種別一覧】

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 視覚障害 | 6 知的障害 |
| 2 聴覚障害 | 7 精神障害 |
| 3 音声言語またはそしゃく機能障害 | 8 発達障害 |
| 4 肢体不自由 | 9 重複障害（身体障害の重複） |
| 5 内部障害 | 10 重複障害（身体障害と知的障害の重複） |
| | 11 その他の重複障害 |

◆回答選択肢◆（2ページの問3（3）の回答選択肢としてお使いください）

【協力団体・委託先一覧】

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 都道府県社会福祉協議会 | 9 一般のレクリエーション団体（レク協会等） |
| 2 市区町村社会福祉協議会 | 10 スポーツ推進委員協議会 |
| 3 特別支援学校 | 11 総合型地域スポーツクラブ |
| 4 障害者スポーツ協会 | 12 障害者の当事者団体、家族会等 |
| 5 障害者スポーツセンター | 13 その他の福祉団体 |
| 6 障害者スポーツ種目団体・クラブ・サークル | 14 大学・専門学校 |
| 7 障害者スポーツ指導者組織 | 15 企業 |
| 8 一般のスポーツ団体（体育協会・競技団体等） | 16 その他（ ） |
| | 17 協力団体・委託先はない |

【スポーツの推進に関する審議会について】

問4 貴自治体には、現在、スポーツの推進に関する審議会がありますか。また、審議会の委員に障害者関係者は就任していますか。（◎はひとつ）

- 1 審議会があり、障害者関係者が委員に就任している
- 2 審議会はあるが、障害者関係者は委員に就任していない
- 3 その他（ ）

【障害者差別解消法施行後の事例について】

問5 平成28年4月から、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されました。この法律では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。

貴自治体が主催するスポーツ関連事業や公共スポーツ施設において、障害者差別解消法の施行以降、次のような事例を把握していますか。（①②それぞれについてあてはまるもの1つに◎）

	1. 事例を把握していない	2. 事例を把握している
① 障害者に対して法律に基づいた合理的な配慮をした事例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> [具体的に?]
② 障害者から差別に関する申し立てを受けた事例	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> [具体的に?]

【公共スポーツ施設と障害者について】

問6 貴自治体では、公共スポーツ施設（障害者の専用・優先施設がある場合はこれを除く）において、障害者の利用に対して具体的な配慮をしていますか。 （あてはまるものすべてに☑）

<input type="checkbox"/>	1 施設利用料の減免
<input type="checkbox"/>	2 障害者用の駐車場の設置
<input type="checkbox"/>	3 男女兼用の障害者用のトイレの設置（オストメイト対応、誰でもトイレなど）
<input type="checkbox"/>	4 男女別の障害者用のトイレの設置
<input type="checkbox"/>	5 障害者用の更衣室の設置（異性介助更衣室、家族更衣室、ケアルームなど）
<input type="checkbox"/>	6 車いす専用ボタンのついたエレベーターの設置
<input type="checkbox"/>	7 スロープ・手すり等の設置
<input type="checkbox"/>	8 点字案内や点字ブロックの設置
<input type="checkbox"/>	9 障害者について専門知識があるスタッフの配置
<input type="checkbox"/>	10 障害者の優先利用時間帯等（プールの優先レーンなど）の設置
<input type="checkbox"/>	11 体育館での競技用車いす（車椅子バスケットボール、ウィルチェアーラグビーなど）の利用
<input type="checkbox"/>	12 障害者のためのスポーツ用具の配備
<input type="checkbox"/>	13 盲導犬の預かり対応
<input type="checkbox"/>	14 筆談用具の設置
<input type="checkbox"/>	15 プール用（入水用）車いすの配備
<input type="checkbox"/>	16 その他 }
<input type="checkbox"/>	17 あてはまるものはない

*サウンドテーブルテニスの台・ボール・ラケットやボッチャの用具等

問7 貴自治体は公共スポーツ施設（障害者の専用・優先施設がある場合はこれを除く）の管理運営を指定管理者に委託する際、仕様や要求水準の中で、以下のような障害者への対応を求めていますか。 （あてはまるものすべてに☑）

<input type="checkbox"/>	1 一般向けの教室に障害者が参加するための配慮
<input type="checkbox"/>	2 障害者を対象とした教室等の開催
<input type="checkbox"/>	3 スタッフを対象とした障害者対応の研修等の実施
<input type="checkbox"/>	4 障害者について専門知識があるスタッフの配置
<input type="checkbox"/>	5 障害者の優先利用時間帯等（プールの優先レーンなど）の設置
<input type="checkbox"/>	6 その他 }
<input type="checkbox"/>	7 仕様や要求水準の中では、障害者への対応は求めている
<input type="checkbox"/>	8 施設の管理運営を指定管理者に委託していない

問8 貴自治体では、地域における障害者のスポーツ参加促進のために、以下の取り組みをしていますか。 （①～③それぞれについてあてはまるもの1つに☑）

	① している	② していない
① 施設のバリアフリーに関する情報をウェブサイトやパンフレット等で提供している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
② 障害者のスポーツ教室やサークルなどの情報をウェブサイトやパンフレット等で提供している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③ 施設の管理者向けに障害者対応のマニュアル・ガイドブックを作成している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

特別支援学校のスポーツ環境に関する調査(A票)

特別支援学校のスポーツ環境に関する調査(A票)

本調査は、障害のある幼児児童生徒のスポーツの場としての特別支援学校の実態把握を目的として、全国特別支援学校長会の「みんなdeスポーツ推進委員会」が実施する自主的な調査となりますが、今回は、スポーツ庁の「障害者スポーツ普及促進事業」に係る調査も兼ねて実施します。調査実施は、日本体育大学 生涯スポーツ学研究室と笹川スポーツ財団（スポーツ庁受託機関）が行います。回答は統計的に処理され、回答者や施設名が公表されることはありません。調査結果は全国の特別支援学校における体育、運動・スポーツ活動の充実、およびわが国の障害者のスポーツ施策の充実のための基礎資料として活用されます。調査の性質上、学校の教育活動外の状況もお伺いしますので、把握している範囲でご回答いただければと存じます。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2016年8月

【調査主体】全国特別支援学校長会「みんなdeスポーツ推進委員会」

【調査協力】日本体育大学生涯スポーツ学研究室／笹川スポーツ財団

【回答方法】郵送、電子メール、またはFAXのいずれかでご回答ください。

① 郵送によるご回答（住所）〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1

② 電子メールによるご回答（メールアドレス）sports@nreac.jp

③ FAXによるご回答（FAX）03-6667-3475

調査票の発送・回答・データ入力については、笹川スポーツ財団の委託先である株式会社日本リサーチセンターが担当しております。調査について不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社日本リサーチセンター 調査部 蔵田・鈴木
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1
TEL：0120-504-570（平日 10:00～17:00）

ご回答期限：2016年8月31日(水)

問1 貴校とご回答者についてお書きください。

学校名			
回答者名		職名	
電話番号		E-Mail	

問2 貴校の幼児児童生徒数についてお答えください。（2016年8月1日現在）

幼児児童生徒総数： 人 ※1 本校は1校・分数をきめずにお書きください。

重度・重複障害者の在籍（●は一つ）

1 あり 2 なし

学校種別区分別・部別内訳

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
幼稚園	<input type="checkbox"/>				
小学部	<input type="checkbox"/>				
中学部	<input type="checkbox"/>				
高等部普通科	<input type="checkbox"/>				
高等部職業学科	<input type="checkbox"/>				
専攻科	<input type="checkbox"/>				

問3 貴校の教員の総数と、保健体育免許を保有している教員の数をお答えください。

(2016年8月1日現在)

教員総数： { }人 注)本校は分校・分教差を含まずにお答えください。

保健体育免許保有教員数： { }人

うち、特別支援学校教諭免許状保有教員数： { }人

学校種区別・部別 保健体育免許保有者内訳

	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱
幼稚部	人	人	人	人	人
小学部	人	人	人	人	人
中学部	人	人	人	人	人
高等部普通科	人	人	人	人	人
高等部職業学科	人	人	人	人	人
専攻科	人	人	人	人	人

問4 貴校の学校教員に、日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員資格保持者はいますか。(●は一つ)

1 いる ()人 うち、保健体育免許保持者 ()人
 2 いない
 3 把握していない } →問6へ

問5 問4で「いる」と回答した方におたずねします。

資格保持者は、現在、幼児児童生徒に対して運動・スポーツを指導していますか。

(●は一つ)

1 すべての人が指導している 3 指導していない
 2 指導している人としていない人がいる

問6 貴校の各学部の保健体育及び体育的授業時数（年間）と主な実施種目をお答えください。

1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱					
※複数の障害種別が合同で活動している授業がある場合は1枚にまとめて、すべて別々の活動の場合は障害別に1枚ずつ記入してください。					
	保健体育			体育的授業 (自立活動、生活単元学習含む)	
	時数 (年間)	主な実施種目 (下記「種目一覧」を参考に、あてはまる番号を全て記入ください)	時数 (年間)	主な実施種目 (下記「種目一覧」を参考に、あてはまる番号を全て記入ください)	
幼稚園	時間		時間		
小学部	低学年	時間		時間	
	中学年	時間		時間	
	高学年	時間		時間	
中学部	時間		時間		
高等部普通科	時間		時間		
高等部職業学科	時間		時間		
専攻科	時間		時間		

【種目一覧】

<運動遊び>					
1	多様な動きをつくる運動遊び	4	跳運動遊び	7	浮く・泳ぐ運動
2	器械・器具を使った運動遊び	8	力試し運動遊び	8	表現リズム遊び
3	走運動遊び	6	水遊び	9	仲間との競争的遊び活動
<ゲーム・ボール運動>					
10	ボール投げゲーム	12	鬼遊び	14	ネット型ゲーム
11	ボールけりゲーム	13	ゴール型ゲーム	15	ベースボール型ゲーム
<体づくり運動>					
<u>排ばぐしの運動:</u>					
16	ラジオ体操	18	ストレッチ	20	いろいろな条件でがいんだり走ったり飛びぬいたりする
17	リズムに乗った体操	19	仲間とあわせて行う運動		
<u>体力を高める運動:</u>					
21	柔軟性を高める運動				
<u>巧み(動き)を高めるための運動:</u>					
22	バランス	23	用具を投げたり受けたりする	24	様々な空間移動
<u>力強い動きを高めるための運動:</u>					
25	体重負荷を使った運動	26	用具を使う運動		
<u>動きを持続する能力を高めるための運動:</u>					
27	フォーキング	29	縄跳び	31	ボール・棒・棒を使った運動
28	ジョギング	30	サーキット運動		
<器械運動>					
32	マット運動	33	鉄棒運動	34	平均台運動
				35	結び物運動
<陸上競技>					
36	短距離走	38	長距離走	40	走り縄跳び
37	リレー	39	ハードル	41	走り縄跳び
42				42	投てき
<水泳>					
43	クロール	45	背泳ぎ	47	複数の泳法で泳ぐ
44	平泳ぎ	46	バタフライ	48	リレー
<球技>					
<u>ゴール型:</u>		49	バスケット	50	ハンドボール
<u>ネット型:</u>		52	バレーボール	53	卓球
<u>ベースボール型:</u>		56	ソフトボール	54	テニス
				55	バドミントン
<武道>					
57	柔道	58	剣道	59	相撲
<ダンス>					
60	創作ダンス	61	フォークダンス	62	現代的なリズムのダンス
<その他>					
63	その他()				

問7 貴校では、通常の体育の授業以外の活動（教育課程外を含む）において、幼児児童生徒がスポーツをする機会としてどのようなものがありますか。昨年度と今年度の実績・予定から、あてはまるものをお選びください。（あてはまるものすべてに○）

【校内での活動】

- 1 学校の運動会・体育祭
- 2 学校のマラソン大会・駅伝大会
- 3 運動部活動やクラブ活動（通年の活動。下の選択肢4を除く）
- 4 同じ敷地内の障害のない中高生の運動部活動への参加（通年参加。不定期の活動は除く）
- 5 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会に向けた期間限定の練習会（部活動は除く）
- 6 夏休み等のプール指導（学校またはPTA等の主催）

【校外での活動（学校が関わる活動。個人の自主的参加は除く）】

- 7 都道府県障害者スポーツ大会などのスポーツの大会への参加（部活動は除く）
- 8 特別支援学校体育連盟主催のスポーツ大会・体育大会への参加
- 9 移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ
- 10 公共のプールや障害者スポーツセンターなど、施設に出かけて行うスポーツ（部活動は除く）
- 11 障害者スポーツ協会や自治体が主催するパラリンピック発掘事業への参加

【地域での活動等】

- 12 他の特別支援学校・学級とのスポーツを通じた交流（部活動は除く）
- 13 近隣や同じ敷地内の障害のない幼小中高生とのスポーツを通じた交流
- 14 近隣住民とのスポーツを通じた交流
- 15 その他（具体的に

<問7で「3. 運動部活動やクラブ活動」と回答した学校におたずねします。

運動部・クラブがない場合は問10にお進みください。>

問8 部活動やクラブ活動のスポーツの内容について、以下の質問にお答えください。

障害種別	1 <input type="checkbox"/> 視覚障害 2 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 3 <input type="checkbox"/> 知的障害 4 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 5 <input type="checkbox"/> 病弱	
	※複数の障害種別が合同で活動している部がある場合は1枚にまとめて、すべて別々の活動の場合は障害別に1枚ずつ記入してください。	
運動部・クラブへの参加（あてはまるものすべてに☑）	1 <input type="checkbox"/> 幼稚園 2 <input type="checkbox"/> 小学部 3 <input type="checkbox"/> 中学部 4 <input type="checkbox"/> 高等部普通科 5 <input type="checkbox"/> 高等部職業学科 6 <input type="checkbox"/> 専攻科	
参加人数	（ ）人	
実施種目および平均実施回数（月）	1 <input type="checkbox"/> アーチェリー - ()回/月	
	2 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ - ()回/月	
あてはまる種目をすべて選んで右の番号に☑	3 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール - ()回/月	
	4 <input type="checkbox"/> 車いすテニス - ()回/月	
	5 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール - ()回/月	
	6 <input type="checkbox"/> 剣道 - ()回/月	
※実施回数については、夏休み等の長期休暇中の活動を除いて回答ください	7 <input type="checkbox"/> ゴールボール - ()回/月	
	8 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス - ()回/月	
	9 <input type="checkbox"/> サッカー（フラインドサッカー含む） - ()回/月	
	10 <input type="checkbox"/> シットティングバレーボール - ()回/月	
	11 <input type="checkbox"/> 柔道 - ()回/月	
	12 <input type="checkbox"/> 水泳 - ()回/月	
	13 <input type="checkbox"/> ソフトボール - ()回/月	
	14 <input type="checkbox"/> 卓球 - ()回/月	
	15 <input type="checkbox"/> 卓球バレー - ()回/月	
	16 <input type="checkbox"/> テニス - ()回/月	
	17 <input type="checkbox"/> ドッジボール - ()回/月	
	18 <input type="checkbox"/> バスケットボール - ()回/月	
	19 <input type="checkbox"/> バドミントン - ()回/月	
	20 <input type="checkbox"/> バレーボール（ソフトバレーボール含む） - ()回/月	
	21 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー - ()回/月	
	22 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール - ()回/月	
	23 <input type="checkbox"/> フットベースボール（キックベースボール） - ()回/月	
	24 <input type="checkbox"/> フライングディスク - ()回/月	
	25 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール - ()回/月	
	26 <input type="checkbox"/> ボウリング - ()回/月	
	27 <input type="checkbox"/> ボッチャ - ()回/月	
	28 <input type="checkbox"/> 野球（ティーボール含む） - ()回/月	
	29 <input type="checkbox"/> 陸上競技 - ()回/月	
	30 <input type="checkbox"/> ロードレース - ()回/月	
	31 <input type="checkbox"/> その他1 () - ()回/月	
	32 <input type="checkbox"/> その他2 () - ()回/月	
活動時間（あてはまるものすべてに☑）	1 <input type="checkbox"/> 放課後（朝始業前含む） 3 <input type="checkbox"/> 長期休業期間（夏休み等） 2 <input type="checkbox"/> 休日（土日祝日） 4 <input type="checkbox"/> その他 ()	
対外試合への参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	
卒業生の練習参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	
重度・重複障害者の参加	1 <input type="checkbox"/> あり 2 <input type="checkbox"/> なし	

問9 貴校の部活動やクラブ活動において、外部指導者（教職員以外）を導入していますか。

導入有無（●は一つ）	1 <input type="radio"/> 導入している	2 <input type="radio"/> 導入していない ⇒問10へ
外部指導者の経歴について（あてはまるものすべてに☑）	1 <input type="checkbox"/> 特別支援学校の元教員（退職者を含む） 2 <input type="checkbox"/> 自校以外の特別支援学校の教員 3 <input type="checkbox"/> 障害者スポーツ協会または障害者スポーツセンターの職員 4 <input type="checkbox"/> 上記1、2、3を除く日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員 5 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒・卒業生の保護者 6 <input type="checkbox"/> 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導員以外の地域のスポーツ指導者（保護者を除く）	
外部指導者の指導種目について（あてはまるものすべてに☑）	1 <input type="checkbox"/> アーチェリー 2 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ 3 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール 4 <input type="checkbox"/> 車いすテニス 5 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール 6 <input type="checkbox"/> 剣道 7 <input type="checkbox"/> ゴールボール 8 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス 9 <input type="checkbox"/> サッカー（ブラインドサッカー含む） 10 <input type="checkbox"/> シットティングバレーボール 11 <input type="checkbox"/> 柔道 12 <input type="checkbox"/> 水泳 13 <input type="checkbox"/> ソフトボール 14 <input type="checkbox"/> 卓球 15 <input type="checkbox"/> 卓球バレー 16 <input type="checkbox"/> テニス 17 <input type="checkbox"/> ドッジボール 18 <input type="checkbox"/> バスケットボール 19 <input type="checkbox"/> バドミントン 20 <input type="checkbox"/> バレーボール （ソフトバレーボール含む） 21 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー 22 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール 23 <input type="checkbox"/> フットベースボール （キックベースボール） 24 <input type="checkbox"/> フライングディスク 25 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール 26 <input type="checkbox"/> ボウリング 27 <input type="checkbox"/> ボッチャ 28 <input type="checkbox"/> 野球（ティーボール含む） 29 <input type="checkbox"/> 陸上競技 30 <input type="checkbox"/> ロードレース 31 <input type="checkbox"/> その他（ ） 32 <input type="checkbox"/> その他（ ）	

問10 貴校の教職員や幼児児童生徒と障害者スポーツとの関わりについて、わかる範囲でお答えください。（あてはまるものすべてに☑）

1 <input type="checkbox"/> 教職員が都道府県の障害者スポーツ大会や種目別のブロック大会・県大会などの運営に関わっている（いた） 2 <input type="checkbox"/> 教職員が特別支援学校体育連盟が主催する大会の運営に関わっている（いた） 3 <input type="checkbox"/> 教職員が全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ大会、種目別全日本選手権などの全国大会の運営に関わっている（いた） 4 <input type="checkbox"/> 教職員が障害者スポーツの競技団体の運営に関わっている（いた） 5 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒や卒業生がパラリンピック、デフリンピック、種目別世界選手権やアジア大会などの国際大会に出場したことがある 6 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒や卒業生がスペシャルオリンピックスの国際大会に出場したことがある 7 <input type="checkbox"/> 1～6にあてはまる事例を把握していない

<すべての学校におたずねします>

問14 貴校では、学校として、児童生徒の学外および卒業後の自主的なスポーツ活動の充実に
つながる以下のような配慮をされていますか。(あてはまるものすべてに☑)

- 1 障害者スポーツセンターに連れて行ったり、情報を提供するなどして、
施設の活用を促している
- 2 児童生徒が参加できるスポーツのイベントやスポーツ教室、
地域スポーツクラブなどの情報を提供している
- 3 福祉サービスを利用した個人的なスポーツ活動（移動支援で公共のプールに行くなど）
を促している
- 4 プロスポーツの試合や障害者アスリートが参加する大会などの情報を提供し、
スポーツの直接観戦やテレビ観戦を促している
- 5 その他 ()
- 6 特にしていない

問15 都道府県・市区町村主催の障害者スポーツ大会等についてお答えください。

問15-1 都道府県主催の障害者スポーツ大会へ、学校として参加していますか(●は一つ)

1 参加している ⇒ 問15-2へ

2 参加していない

↓
貴校の幼児児童生徒の個人参加はありますか？(●は一つ) →回答後は問15-3へ

1 ある

2 ない

3 把握していない

問15-2 「参加している」と回答した方にお尋ねします。

参加している種目についてお答えください。(あてはまるものすべてに☑)

- | | |
|--|--|
| 1 <input type="checkbox"/> アーチェリー | 17 <input type="checkbox"/> ドッジボール |
| 2 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ | 18 <input type="checkbox"/> バスケットボール |
| 3 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール | 19 <input type="checkbox"/> バドミントン |
| 4 <input type="checkbox"/> 車いすテニス | 20 <input type="checkbox"/> バレーボール(ソフトバレーボール含む) |
| 5 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール | 21 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー |
| 6 <input type="checkbox"/> 剣道 | 22 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール |
| 7 <input type="checkbox"/> ゴールボール | 23 <input type="checkbox"/> フットベースボール(キックベースボール) |
| 8 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス | 24 <input type="checkbox"/> フライングディスク |
| 9 <input type="checkbox"/> サッカー(ブラインドサッカー含む) | 25 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール |
| 10 <input type="checkbox"/> シットティングバレーボール | 26 <input type="checkbox"/> ボウリング |
| 11 <input type="checkbox"/> 柔道 | 27 <input type="checkbox"/> ボッチャ |
| 12 <input type="checkbox"/> 水泳 | 28 <input type="checkbox"/> 野球(ティールボール含む) |
| 13 <input type="checkbox"/> ソフトボール | 29 <input type="checkbox"/> 陸上競技 |
| 14 <input type="checkbox"/> 卓球 | 30 <input type="checkbox"/> ロードレース |
| 15 <input type="checkbox"/> 卓球バレー | 31 <input type="checkbox"/> その他1 () |
| 16 <input type="checkbox"/> テニス | 32 <input type="checkbox"/> その他2 () |

問15-3 市区町村主催の障害者スポーツ大会がありますか。(●は一つ)

1 ある 2 ない ⇒ 問16へ

問15-4 「ある」と回答した方にお尋ねします。

市区町村主催の障害者スポーツ大会へ、学校として参加していますか。(●は一つ)

1 参加している ⇒ 問15-5へ
2 参加していない
 ↓
 貴校の幼児児童生徒の個人参加はありますか？(○は一つ) ⇒ 回答後は問16へ
 1 ある 2 ない 3 把握していない

問15-5 「参加している」と回答した方にお尋ねします。

参加している種目についてお答えください。(あてはまるものすべてに区)

1 <input type="checkbox"/> アーチERY	17 <input type="checkbox"/> ドッジボール
2 <input type="checkbox"/> グラウンド・ゴルフ	18 <input type="checkbox"/> バスケットボール
3 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール	19 <input type="checkbox"/> バドミントン
4 <input type="checkbox"/> 重いテニス	20 <input type="checkbox"/> バレーボール(ソフトバレーボール含む)
5 <input type="checkbox"/> 車椅子バスケットボール	21 <input type="checkbox"/> ハンドサッカー
6 <input type="checkbox"/> 剣道	22 <input type="checkbox"/> ふうせんバレーボール
7 <input type="checkbox"/> ゴールボール	23 <input type="checkbox"/> フットベースボール(キックベースボール)
8 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス	24 <input type="checkbox"/> フライングディスク
9 <input type="checkbox"/> サッカー(ブラインドサッカー含む)	25 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール
10 <input type="checkbox"/> シットイングバレーボール	26 <input type="checkbox"/> ボウリング
11 <input type="checkbox"/> 柔道	27 <input type="checkbox"/> ホッパ
12 <input type="checkbox"/> 水泳	28 <input type="checkbox"/> 野球(ティールボール含む)
13 <input type="checkbox"/> ソフトボール	29 <input type="checkbox"/> 陸上競技
14 <input type="checkbox"/> 卓球	30 <input type="checkbox"/> ロードレース
15 <input type="checkbox"/> 卓球バレー	31 <input type="checkbox"/> その他1 ()
16 <input type="checkbox"/> テニス	32 <input type="checkbox"/> その他2 ()

問16 貴校において、幼児児童生徒のスポーツ活動をより一層充実させるためには、

今後どのような取り組みが重要だと考えますか。(あてはまるものすべてに区)

1 <input type="checkbox"/> 教職員がスポーツを指導できる時間の確保
2 <input type="checkbox"/> 教職員の専門知識・ノウハウの習得
3 <input type="checkbox"/> 外部人材(ボランティアスタッフを含む。選択肢4を除く)の確保・充実
4 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒の体調管理のための医療スタッフ(看護師など)の確保
5 <input type="checkbox"/> 校内の施設やスペースの確保・拡充
6 <input type="checkbox"/> 用具や器具の確保・充実
7 <input type="checkbox"/> 幼児児童生徒がスポーツに取り組む時間を確保するための移動手段の充実 (スクールバスの増便など)
8 <input type="checkbox"/> その他 ()

問17 都道府県の特別支援学校体育連盟はありますか。(●は一つ)

1 <input type="radio"/> ある	2 <input type="radio"/> ない	3 <input type="radio"/> 把握していない
----------------------------	----------------------------	---------------------------------

問18 貴校において、保有・整備しているスポーツ用具についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1 <input type="checkbox"/> 体づくり運動用具(縄跳び、一輪車など)	13 <input type="checkbox"/> バレーボール用具
2 <input type="checkbox"/> 器械運動用具(遊具箱、マット、鉄棒など)	14 <input type="checkbox"/> 卓球用具
3 <input type="checkbox"/> 陸上運動用具(バトン、ハードル、ライン引きなど)	15 <input type="checkbox"/> バドミントン用具
4 <input type="checkbox"/> プール用水泳用具	16 <input type="checkbox"/> テニス用具
5 <input type="checkbox"/> ソフトボール用具	17 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール用具
6 <input type="checkbox"/> サッカー用具	18 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス用具
7 <input type="checkbox"/> バスケットボール用具	19 <input type="checkbox"/> ゴールボール用具
8 <input type="checkbox"/> タグラグビー用具	20 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール用具
9 <input type="checkbox"/> フラッグフットボール用具	21 <input type="checkbox"/> 武道用具(柔道着、柔道巻、剣道防具、竹刀など)
10 <input type="checkbox"/> ティーボール用具	22 <input type="checkbox"/> 表現運動・ダンス用具(太鼓、棒、輪など)
11 <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール用具	23 <input type="checkbox"/> その他
12 <input type="checkbox"/> ハンドボール用具	

問19 今後、具体的に必要としているスポーツ用具がある場合は、当該用具をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

1 <input type="checkbox"/> 体づくり運動用具(縄跳び、一輪車など)	13 <input type="checkbox"/> バレーボール用具
2 <input type="checkbox"/> 器械運動用具(遊具箱、マット、鉄棒など)	14 <input type="checkbox"/> 卓球用具
3 <input type="checkbox"/> 陸上運動用具(バトン、ハードル、ライン引きなど)	15 <input type="checkbox"/> バドミントン用具
4 <input type="checkbox"/> プール用水泳用具	16 <input type="checkbox"/> テニス用具
5 <input type="checkbox"/> ソフトボール用具	17 <input type="checkbox"/> グランドソフトボール用具
6 <input type="checkbox"/> サッカー用具	18 <input type="checkbox"/> サウンドテーブルテニス用具
7 <input type="checkbox"/> バスケットボール用具	19 <input type="checkbox"/> ゴールボール用具
8 <input type="checkbox"/> タグラグビー用具	20 <input type="checkbox"/> フロアバレーボール用具
9 <input type="checkbox"/> フラッグフットボール用具	21 <input type="checkbox"/> 武道用具(柔道着、柔道巻、剣道防具、竹刀など)
10 <input type="checkbox"/> ティーボール用具	22 <input type="checkbox"/> 表現運動・ダンス用具(太鼓、棒、輪など)
11 <input type="checkbox"/> ソフトバレーボール用具	23 <input type="checkbox"/> その他
12 <input type="checkbox"/> ハンドボール用具	

問20 幼児・児童・生徒の運動やスポーツでお困りのこと等ございましたらご記入ください。

例) 気軽に運動できる施設が無い。特別支援学校の教員以外の者がいない。

～以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。～

○著作権者 スポーツ庁 健康スポーツ課 障害者スポーツ振興室

(問合せ先) 〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関 3-2-2

TEL 03-5253-4111 (代表)

○発行元 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-6011 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL 03-5545-3301

